

世界遺産条例めざす

登録 30 周年

シンポに約 80 人



日本共産党市議団は、2月「京都市世界文化遺産保護条例」(仮称)骨子案を発表。市民のみなさんにご意見を寄せていただくよう呼びかけています。

3月26日には、「世界遺産条例の制定をめざすシンポジウム～開発圧力に抗して、大切な京都を未来につなぐ～」とするシンポジウムを開催し、会場、オンライン合わせて約80の方が参加されました。シンポジウムでは、中林浩さん(神戸松蔭女学院大学元教授)から、世界と日本の世界遺産の現状を、画像もふんだんに報告していただき、京都の世界遺産登録に向けた取組の経過も話されました。続いてとがし豊議員から、市議団の条例骨子案についての報告。シンポジウムでは、世界文化遺産仁和寺の環境を考える会の桐田勝子さん、糺の森未来の会世話人の人見明さん、弁護士の中島晃さんから、現在のたたかいと、たたかいの中で感じていることについてそれぞれ報告いただき、意見交換しました。ご参加の方からも積極的な質問や意見が寄せられました。倉林明子、井上さとし両参議院議員からあいさつをいただきました。

参加者の感想の一部を紹介します

京都のまちづくりの大きな指針が出されたことを歓迎します。これまで、京都市や府がまちこわしをすすめる中で、その都度反対運動をくり返したことに、「何とかならんのか」と思っていました。やっと、世界と日本に誇る京都のまちづくりの大きな柱が提案されたことは安心して暮らせるまちづくりをめざす運動に励みになる指針です。共産党だけでなく、超党派で制定されることを望みます。

私は、市内各地で現場をまわり、嵐山なら看板や軒先テントの色、形を周辺の町並みと調和するように提案し、景観を守るために仕事してきました。京都のまちなみは京都を愛する市民が守り続けてきたと自負しています。実感しています。目先の利益しか頭がない東京資本や外国資本に好き勝手させるわけにはいかないのです。北陸新幹線も、取り返しの付かない環境破壊は許さない運動を続けましょう。

シンポジウムの様子は市議団のYouTubeチャンネルで公開しています

ご視聴はこちら→



(講演部分)



(シンポジウム)

条例骨子案に、みなさんのご意見をお寄せください。意見募集フォームはこちら→

